

平成31年度入学生用カリキュラムマップ

【応用音楽学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号															
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目															
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4		
19UMUA1100	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアパスを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。	○												◎	◎	○	
19UMUA1101	初期演習Ⅱ（音楽探求への誘い）	1	前期の「初期演習Ⅰ」での学習を踏まえ、4年間の本学科における教育の体系、一貫性を理解し、より多角的な音楽の研究をとおして全人的発展を遂げ、将来のキャリアパス形成に繋がるよう、今後の本学科における専門教育の目標を達成するよう導く。	①専門領域のより多角的な研究を遂げるためにカリキュラムツリーに基づくカリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの理解を深める。 ②専門領域における研究倫理を培うと共に、卒業後の進路も見据えたキャリアパス形成に向けた知識、手段を考える力を身につける。 ③上記の事項を実践し、総合的に成熟した音楽人として成長していく。	○												◎	◎	○	
19UMUA2102	2年次演習	2	音楽人として確実に身につけておくべき事項を中心に課題を与え、「情報収集、思考、討議、分析、プレゼンテーション」という主体的・能動的学習を経験し、グループワークによる協働力を養う。	上級学年において、より専門的な研究を深め音楽芸術を表現・活用していくため、また将来のさまざまな進路に向けて、論理的思考力、コミュニケーション能力の向上を目指す。	◎												○	○	◎	○
19UMUA1103	英語 A	1	これまでに修得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要なとされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。	異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。												◎			○	
19UMUA1104	英語 B	1	これまでに修得した英語の知識、能力の上にたち、異文化に対する理解を深めながら、現代社会に必要なとされる情報伝達のための英語力、すなわち、読む、書く、聴く、話す、のいわゆる四技能の総合的向上をはかる。まず四技能の基礎力を見直し、必要に応じてこれを補強することに重点を置く。	異文化の理解。そのために必要な英語の知識と学び方を身につけ、現代社会に必要な英語力の基礎（基本的語彙・文法事項・構文）を習得する。													◎		○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																						
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																						
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性													
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3	4-4									
19UMUA1212	ソルフェージュ I A	1	読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。	音楽を表現するために必要なリズム感、フレーズ感を養い、教職等の現場での実践力を養う。	◎																						
19UMUA1213	ソルフェージュ I B	1	前期にひきつづき、読譜・聴音・視唱などの基礎能力の他に、演奏するために必要な作曲家の意図を総合的に把握し表現できる能力を養う。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	♯、b一つまでの旋律に適した伴奏を付けることができ、複数の旋律を聴きわけることができるようにする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎																						
19UMUA2214	ソルフェージュ II	2	音楽活動をするための基本的スタンスを確立する。音楽的基礎能力を各個人の能力に従って順次高めていく。	すべての調の旋律の初見視唱とともに、その旋律への簡単な伴奏付けができるようにする。さらに社会での音楽活動に必要な初見視奏や移調奏などの能力の養成も合わせて行う。	◎																						
19UMUA1215	和声法 A	1	楽典の知識を身につけ、構築の柱の一つである和音の流れ（和声）をベースに楽曲構成、対位的な旋律の構築について考察する。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	西洋音楽・文化に関する知識の理解や、演出、表現などを含む伴奏即応力、即興的表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎																						
19UMUA1216	和声法 B	1	西洋音楽の中核をなすバッハ・モーツァルト・ベートーヴェンなどの作曲家によって完成された和声技法の基礎を学び、和音の使い方を通して、作曲家の意図を正確につかみとる能力を養う。	西洋音楽・文化に関する知識の理解や、演出、表現などを含む伴奏即応力、即興的表現力の向上に役立つ能力を身につけることなどを目標とする。	◎																						
19UMUA2217	指揮法 I	2	音楽性豊かな表現をするための基本的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える身体的表現を身につける。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																			◎				
19UMUA2218	指揮法 II	2	さらに多彩な表現をするための応用的な指揮法の習得を目的とする。 本科目は、中高教科音楽を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	指揮者と指導者の目線で楽譜を捉えて、それを伝える方法として「応用的指揮法」を学ぶ。 教職課程履修学生は、学修内容を中高教科音楽の内容および教材に関連づけて主体的に探求する。																			◎				
19UMUA2219	即興演奏 A	2	「即興演奏」の手法を学び、その基礎力を身につけ、音楽療法の即興演奏にも役立てる。	科目習得時には、伴奏譜がなくても、メロディーとコードネーム付き一段譜を見て、変奏も含めた簡単な即興演奏ができる事を目標とする。										◎	○								◎				
19UMUA2220	即興演奏 B	2	即興演奏 A で学んだ即興とはまた違った即興演奏を学習し、音楽療法に役立つ即興演奏を充実させるために必要となる基礎力をさらに向上させる。 簡単なメロディーを即興的に作成し、ピアノで即興演奏できる事を目指し、将来、音楽療法、教員や音楽教室講師などの職業に大いに役立つ力を身につける。	科目習得時には、メロディーのモチーフを発展させ、即興的に簡単な曲が作成できる事を目標とする。																			◎	○			◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																								
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																								
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1:	1-2:	1-3:	2-1:	2-2:	2-3:	2-4:	3-1:	3-2:	3-3:	4-1:	4-2:	4-3:	4-4:							
19UMUA3257	臨床医学各論Ⅰ	3	うつ病を15人に一人が経験するとされるなど、精神障害が身近で頻度の高い疾患であること、そして決して特別な病気でないことが最近では広く知られるようになってきている。正しい精神障害に対する知識を深めることを授業目的とする。	音楽療法士資格試験を合格できるだけの精神医学の一般的な知識を得る。											◎														
19UMUA3258	臨床医学各論Ⅱ	3	日本音楽療法学会が出題している音楽療法士(補)認定試験問題を解くために必要な知識のうち、“臨床医学各論Ⅱ”の関連分野である“小児の身体的および認知面の発達と疾患”について、音楽療法士として理解しておくべき内容について講義を行う。	ヒトの身体の解剖生理、小児の身体的、認知的発達の基本的仕組みを理解する。さらに発達からの逸脱、疾病、特に後に障害の原因となる病態について理解できるようにすることを目指す。											◎														
19UMUA3259	音楽療法演習	3	音楽療法の知識や技法を習得し、実践への応用力を養う。	・高齢者への音楽療法の技法を習得する。 ・子どもへの音楽療法の技法を習得する。 ・音楽の諸要素を療法的に活用する方法を知る。 ・多様な症例を想定した素材・教材について研究する。 ・音楽療法実践場面に必要な観察・評価法を学ぶ。															◎	◎		○	○	○					
19UMUA1260	音楽療法実習Ⅰ	1	様々な音楽療法の対象者や方法、および臨床の実践について、体験学習を通して基礎的理解をする。	・高齢者の音楽療法の実際について知る。 ・子どもの音楽療法の実際について知る。 ・病院における音楽療法の実際について知る。																◎		◎	○	○	◎	○	○		
19UMUA2261	音楽療法実習Ⅱ	2	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。	・子どもの音楽療法について知る。 ・高齢者への音楽療法について知る。 ・対人援助に必要なマナーや態度を習得する。 ・音楽療法における観察と記録の方法を習得する。																◎		◎	○	○	◎	◎	○		
19UMUA3262	音楽療法実習Ⅲ	3	社会的体験を通して、対象者および対人援助についての理解を促進する。主に高齢者に対する音楽療法実践に必要なとされる基本的な技能、態度を習得する。	・認知症高齢者への音楽療法の実践方法を学ぶ。 ・アセスメントと目標の設定について学ぶ。 ・音楽療法における適切な音楽の選曲や演奏方法について学ぶ。																◎		◎	◎	○	○	◎	◎	○	
19UMUA4263	音楽療法実習Ⅳ	4	専門的な観点から対象者を理解し、自立的に音楽療法の臨床、実践を行う力を養成する。	・対象者へのアセスメントを行う。 ・対象者に合わせた音楽療法の目標を設定し、計画、実施する。 ・適切な音楽を選択し、療法的な効果をもたらせるように活用する。 ・対象者が演奏しやすいように伴奏する。 ・音楽療法の評価を行い、事例レポートを作成する。																◎		◎	◎	○	○	◎	◎	○	
19UMUA3264	音楽療法研究法	3	この授業において、前期は文献調査の方法や音楽療法研究の主な手法について理解を深め、自らの研究テーマを探る第一歩とする。またExcelを用いて統計解析とグラフの作成を行い、データ解析の基礎を身につける。後期は、音楽療法士として自己形成する目標と方法を確立し、音楽療法の実践を事例研究レポートとしてまとめあげる力を養う。	通年の授業を通して以下の到達目標を設定する。 ①文献や資料をもとに音楽療法の研究方法、研究内容を理解し、自らの関心領域を見つける。 ②量的研究について認識を深め、データの集計や基本的な統計解析から音楽療法の効果を客観的に考察する力を身につける。 ③質的研究について、個々の多様な事例の理解を深め、療法的視点で考察できる力を身につける。 ④音楽療法関連分野の質的・量的研究、新しい研究事例の学習を通じて、対象者のニーズに応じた臨床・研究法を提案できるようになる。 ⑤授業全体を通して自ら設定した研究課題について、研究計画が立案できるようになる。																						◎	○		◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
19UMUA4265	音楽療法総論	4	音楽療法と関連分野の総合的な知識の修得、および理解の深化を目的とする。	以下の領域における知識を修得する。 ・音楽療法 ・音楽 ・音楽心理学 ・統計 ・研究方法 ・臨床心理学 ・発達心理学 ・基礎医学 ・小論文の書き方	○			○			◎	○	◎	○			○
19UMUA1266	音楽社会学概論	1	「音楽」を通じて社会を見るための広範な知見を得られるようにする。テキストの購読を中心とし、そこから音楽および音楽社会学を取り巻く状況や、関連する学問分野について学ぶ。	身近な音楽と社会の関係を自ら発見できるようにする。	◎											◎	
19UMUA4267	音楽教育学研究	4	本科目では、近年の音楽教育研究において、どのようなアプローチで課題解決を図っているのかを学び取り、学生自らの問題意識と結びつけながら思考する力を養う。	音楽教育学の理論的な思考法を理解し、自らの考えを述べることができる。	○				◎								
19UMUA1268	環境と音楽	1	音楽と、音楽がおかれる環境に関して多角的に学ぶ。	音楽活動が行われる環境について広い視野をもてるようにする。	◎											◎	
19UMUA3269	生涯学習関係論Ⅰ	3	本授業では、生涯学習に関する基礎知識を学び、生涯学習関連施設で展開されるさまざまな取り組みを知ることで、生涯学習の役割を検証するとともに、生涯にわたって学習することの意義を理解するための基礎を養うことを主な目的としている。	・家庭教育、学校教育、社会教育の役割を知るとともに、それらを幅広く包括する生涯学習の基礎知識を得る。 ・生涯学習関連施設の役割や取り組みから、市民参加者との関係性や連携について学ぶ。 ・生涯学習とボランティア活動、市民活動、NPO活動の関連について学び、生涯学習での学びを主体的に社会に生かすことの重要性について考察する力を身につける。							◎	○					
19UMUA3270	生涯学習関係論Ⅱ	3	音楽を中心とする芸術環境と生涯学習・社会教育環境について学び、両分野をコーディネートできる知識・実践を身につける。	生涯学習領域における音楽の役割を理解する。							◎	○					
19UMUA2271	音楽とマルチメディア	2	本授業では、音楽を鑑賞するという行為に注目し、過去からの変遷を学ぶことで、マルチメディアが音楽の聴取スタイルや音楽内容に変化をもたらしたことを知るとともに、マルチメディアを音楽活動の実践に活用するための視点を養うことを主な目的としている。	・マルチメディアの出現によって、音楽の聴取スタイルや音楽内容自体に変化をもたらしたことを理解する。 ・現在身近なものとして使用する音楽再生機器がどのように発展してきたのか、過去からの変遷について知識を得る。 ・マルチメディアを音楽活動に活用するための方法を提案できる力を養う。	◎						◎						
19UMUA4272	表現技術演習	4	コミュニケーション能力と言語能力を高めるための演習である。音楽を媒体として相互理解をするにしろ、それを取り巻く言語による表現力が長けている方がスムーズに本質に近づく。寡黙なミュージシャンではなく、言語表現力の豊かな魅力的な人間になるための実践演習をする。	適切な言語を使って、心のふれあいができるようにコミュニケーション能力を高める。									○	○	◎	◎	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																	
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																	
					1.	2.	3.	4.	1-1:	1-2:	1-3:	2-1:	2-2:	2-3:	2-4:	3-1:	3-2:	3-3:	4-1:	4-2:	4-3:	4-4:
19UMUA4273	音楽文化創造学	4	近年、音楽を取り巻く環境は大きく変化している。とりわけデジタル化以降の音楽文化において、静止画、動画、文字などとの融合がみられる。また他方で、さまざまなメディアに音楽、映像コンテンツが用いられるようになってきた。本科目では、それらを取りまく近年の状況を踏まえた概説を用いつつ、デジタルコンテンツを実際に制作し、実践的な理解を深めることを目的とする。	音楽文化とそれをめぐるメディアを理解し、音楽を用いたデジタルコンテンツ制作の基礎技術を身につける。		◎																
19UMUA3274	音楽文化事業企画演習	3	音楽や文化に関する事業の企画者として必要な能力を獲得することを目的とする。	音楽事業を実施するにあたって理解すべき事柄を習得し、実践する。	○							◎	○	○		○						
19UMUA4275	音楽活用実習	4	これまでに学習した音楽活用の各領域についてより実践的な能力を身につける。	アーツマネジメントおよび生涯学習に関する関係機関などの状況を具体的に理解し議論できるようにする。	○							◎	◎		○	○	○					
19UMUA1276	理系女性のキャリアパス設計論	1	本講義では、男女共同参画社会の実現、社会における理系女性の位置づけ、およびキャリア形成における支援制度や政策をテーマとした実習重視型の講義を行う。そして、受講者が目指すキャリアを明確化してキャリアパスを設計し、実践的なスキルを獲得することで、社会で主体的に活躍できるように支援することを目的とする。	①日本の男女共同参画の現状について、世界各国との比較から説明できる。 ②ライフイベント（出産、育児、介護）と仕事を両立しながら活躍している女性の講演から、多様な働き方があることを認識し、キャリアを継続するために利用可能な制度等に関する知識を持つ。 ③グループディスカッションや個人発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。 ④将来のキャリアパスをイメージし、具体的に組み立てることができる。	○														○			
19UMUA1284	生命科学と倫理を巡る知性と感性	1	現代社会を支える科学技術の基盤となっている科学技術的思考法を学習する。哲学の考え方や倫理問題、研究開発などの講義を通して、探究心を向上させ、広い視野で実践的な思考態度を身につけることを目的とする。	①科学技術分野の基礎となる生命科学や情報科学の基本的枠組みを理解する。 ②哲学や倫理問題など一義的に正解のない問題に対し、自分の考えをまとめることができる。 ③発表討論会およびディスカッションを通して、自らの意見を的確に述べるとともに、他者の発表内容から多様な考え方に触れ、本講義で学んだ内容について深い洞察力や考察力を身につける。	○													○		○		
19UMUA1279	地域活性化システム論	1	地域の活性化に必要な知識、構造、問題点等を明らかにし、系統的に理解することにより、地域再生に必要な方策を考える能力を身につけることを目的とする。特に、関西地域の活性化に向けて、医療・医学、福祉、医工学・情報学分野でどのような取り組みが必要であるか、またどのような連携システムの構築が必要であるかを学習する。	①医療、福祉、教育、ICT（情報通信技術）など多分野からの地域活性化の実例を通して、地域活性化の方法論を理解する。 ②自分の居住地域の問題に関心を持ち、地域を活性化させるために必要なものを具体的に考えることができる。 ③総合討論における講師・受講生とのディスカッションにおいて積極的に発言し、自らの考えを的確に述べることができる。	◎														◎			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現			3. 思考・判断			4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	4-1	4-2	4-3
19UMUA3285	プレプロフェッショナル教育	3	近年の医・歯・薬学、工学・情報学の目覚ましい発展により、各分野を融合した医工学研究領域が新たな学問として脚光を浴びている。しかし、医学を理解した工学・情報学系の人材、工学・情報学系を理解した医療従事者は乏しいのが現状である。本科目では専門色が強く、かつ実習を取り入れた講義を行い、医工学領域の即戦力として活躍するために必要な知識を得ることを目的とする。	①専門科目では、臨床医工学・情報学の融合分野における最新の知見を学習し、各講義テーマと自らの専門分野・関心領域の知識とを結びつけて考えることができる。 ②共通科目においては理系（科学）英語の読み方・書き方および統計解析の考え方を学び、演習を通して研究をする上で必要となる基礎的なスキルを身につける。 ③実習では医療や福祉の現場を体感し、最新の機器等について理解を深めるとともに、講師とのディスカッションから研究倫理・職業観を養う。 ④本科目全体を通して、臨床医工学・情報学の融合分野への興味関心を喚起しながら自らが進む方向（分野）を考え、将来のキャリア形成の一助とすることができる。	○			○									
19UMUA1283	多職種協働グループワーク実践論	1	医療や福祉の現場において、高度な医療や全人的な福祉を実践するために、多様な専門職が協調しながら職務を遂行する「チーム医療」・「チーム福祉」の取り組みが求められている。将来、臨床医工学情報学の融合分野において、互いの専門性を理解しながら主体的に活躍するためには、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力、課題発見・課題解決力などが必要である。本講義では、異分野の学生とのグループディスカッション・発表プレゼンテーションを通して、それらの能力を養い、協調的な学習から相互理解を深めるとともに、グループだからこそ生まれる新しい知見・アイデアを創造することを目的とする。	①学生間の相互理解と問題解決に向けた共通認識を持つために、自分の専門分野の知識を異分野の学生にもわかりやすく伝えることができる。 ②グループが1つのチームとして有機的に活動し、協調的な学習から異分野融合による新しいアイデアを創造することができる。 ③異分野の学生とのグループディスカッションおよびグループ発表会を通して、コミュニケーション能力や発信力・傾聴力などに代表される「社会人基礎力」を身につける。	◎							○		◎	○		